

海外実地研修 9月3日(月)

自然・景観班の細測です。18日間の海外実地研修も9日目を迎え折り返し地点まで来ました。本日も昨日に続きノルウェーはオスロに滞在しております。15分ごとにオスロ大聖堂から美しい鐘の音が響くなど良いところもたくさんあります。実際に、この日報を書いている際もこの音を聞き何度も癒されたものです。何度も試行を重ね完成した前日の日報がバツサリとカットされた時の悲しさもこの鐘の音で幾分かマシになった気がします。

本日、自然・景観班はオスロ中央駅のトラム乗り場 (Jernbane torget 駅) から12番トラムで約3km北西へ移動し、フログネル公園の一部であるヴィーゲラン彫刻公園 (Vigelandsparken 駅) という公園へ赴きました。

32万㎡と東京ドームの約7倍の面積を誇るこの公園はノルウェー出身のグスタフ・ヴィーゲランが作った作品のみが展示されています。なぜヴィーゲランの作品のみが展示されているのかというと「私の作品以外展示するな」といった趣旨の遺言を彼が残したからだとされています。また24時間無休で開放されているのも彼の遺言の影響であると思われまふ。公園に並ぶ212点にも及ぶ彼の作品は全て「人生の諸説」をテーマとしていてブロンズ、花崗岩で作られた大小様々なサイズの人型の彫刻が展示されています。また1作品に何人かいる場合があるので作品数212点にして彫刻を構成する人数の合計は600人を超える、と言う破格の数字となっていました。

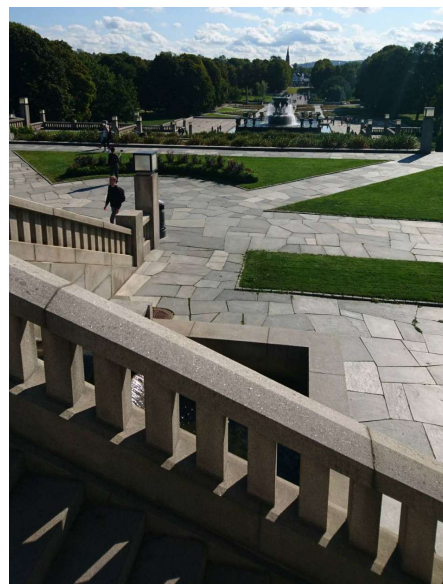


写真1 ヴィーゲラン彫刻公園の様子  
彫刻それぞれに解説が無いので自身で  
感じ取ったものが正解と言えるでしょう。

このヴィーゲラン彫刻公園の特筆すべき点は、これらの作品全てに解説ない事です。これは彼の意向で見ている人、即ち我々にそれぞれの解釈をしてもらう為だとされています。その為、有名な「地団駄を踏む赤ん坊」にも他の作品同様に解説はなく、地元の人や旅行会社が名物として勝手に名付けたものだと推測する事が出来ます。また錆びている作品、特に頭の上から錆びているものがいくつか見られたのでこの地域では酸性雨が多いのではとも考えられます。



写真2 ヴィーゲランの作品

このヴィーゲラン彫刻公園で何人かにツアーリストアンケートを行なったのですが、それを通して観光客は勿論、地元の人も一定数訪れていることが判明しました。中には「数えてないけど300回以上来たのではないか。」という人もいらっしゃいました。他にもジョギングしている人やベンチで睡眠をとる人が多く見られ、この公園はオスロの重要な観光資源である前に近隣住民の憩いの場、コミュニティ形成の場となっているのではないかと考えられました。

(筆者:細渕有斗)